



報告

2010.11.26～28

1

日本随心行に出展

2010年11月26日から28日までの3日間、北京市王府井の東方新天地地下ショッピングセンター内において、訪日旅行イベント「日本随心行」が開催されました。

このイベントは観光庁、日本政府観光局(JNTO)の主催によるもので、2月の春節休暇(旧正月、2日から8日までの間)を利用した訪日旅行への誘客キャンペーンの一環として展開されたもの。北京市のほか、上海市、広州市でも、順次、開催されました。

当事務所も「新潟」の魅力や観光資源を伝えるため、職員総出による参加となりました。当事務所のほか札幌市、自治体国際化協会(CLAIR)、日系航空会社、現地旅行会社などが出展。会場は「日本の冬」や「温泉」などを意識したプロモーションであり、スノーレジャーを売りにしたブース、日本で流行中のヘアメイクやネイルケア・アートを体験できるブース、またサブカルチャーとして定着しコスプレの人気の題材の一つであるメイドカフェの「メイド」も出現するなど、若い客層を中心に多くの買い物客の興味を引いていました。

この「訪日旅行」に関しては、昨年7月1日より訪日観光ビザの発給条件が大幅に緩和されたこともあり、昨年の日中間の人的往来は今までに無い急激な伸びとなりました。特に中国からの訪日観光客の伸びが顕著であり、電化製品や高級ブランド服飾品などを買い求める様子は新聞、テレビなどで幾度となく目にしました。しかしながら日中両国関係は必ずしも良好とは言えない局面を迎え、9月以降その関係はいささか低迷した状況となったことは記憶に新しいところです。

以来、落ち込んでいた中国からの訪日観光客数ですが、「この春節休暇で回復する兆しが見えてきた。」と一部に報道されています。そもそも中国でも富裕層を中心として日本同様、海外や温暖地でこの春節を過ごす方が増加しているとのこと。

この号が発行される頃は、丁度、春節の時季ですが、このような誘客に向けた取り組みによって日中関係が少しづつでも回復し、新潟への観光客が増加することを期待します。(佐藤)



新潟ブース前景



新潟市ブースへの来訪者

「2011 JETO広州日本食品商談会」に参加

1月21日「広州日本食品商談会」が広東省広州市内の珠江のほとりに建つ江湾大酒店で開かれました。主催は日本貿易振興機構(JETRO)、出展者は過去2回を大きく上回る33社でした。都府県別出展者数では、新潟県は大阪府、福岡県と並んで多く4社が参加し、来場者の皆さんに練り製品や醤油、つゆ、県産米などを紹介しました。

朝9時の開場時から多くの人でにぎわい、流通業、ホテル・レストラン関係者など約450名の来場があったそうです。当事務所のブースでは具体的な問い合わせにも対応できるよう、広州伊藤忠商事の方から協力をいただき、一緒に県産米をPR。どこで販売しているのか、取り扱うとしたらどこに連絡するのか等の質問があり、また、価格(2キロ198元)の関係からか主に贈答用として見られている印象を持ちました。

会場で同時に行われたのが「創作広東料理発表会」。各出展者が提供する食材を使い、友好都市福岡から招かれた調理専門学校先生や会場となっているホテルのシェフが和食、広東料理を作り、来場者に試食してもらおう試みです。県産米を使ったちらし寿司も振る舞われ、多くの方に食べていただきました。

日本産米の中国への輸出については、最近様々な動きがニュース等で報じられています。今後どのような展開になっていくかわかりませんが、機会を捉えてお米や新潟のことをPRしていきたいと思います。(近藤)



当事務所の展示ブース

3 ハルビン冰雪節

1月5日夜、市内を流れる松花江の北に設けられたハルビン冰雪大世界を会場に「第27回中国・ハルビン国際冰雪節」の開幕式が行われました。

60万平方メートルの広い会場に、様々な氷の建造物を配置、その氷の中にLED照明が入れられ、城や塔などが色とりどりに輝いています。氷は松花江から切り出され、透き通っており、その美しさと大きさに圧倒されました。入場料は金曜から日曜日は330元/成人(その他の日は280元。日本円で、約4,200円と3,500円)と高額ですが、雪の降らないところからの観光客にとっては、やはりハルビン観光の見どころの一つです。

また、昼間は太陽島公園で雪像の世界も楽しむことができます。実際に制作中の雪像も見ることができました。

ハルビン市の長年の努力もあり、同市の冰雪文化は着実に根付いてきており、都市の魅力にもなっています。札幌の雪まつりと並び、世界の四大冰雪まつりとも言われています。中国に全国の観光カレンダーがあるとすれば、ハルビンの国際冰雪節はすでに一年の最初を飾るイベントに位置付けられています。

今年のテーマは、「歡樂冰雪、激情城市(楽しい氷と雪、情熱の都市)」。新潟から週4便で結ばれている友好都市ハルビン。冬、観光地に行くならやはり暖かい地方を選んでしまいますが、幻想的な世界を新潟では体験することのない(冷凍庫の中のような)気温の中で見るのも思い出になります。「激情」にあふれたハルビンへ、皆さんも一度どうぞ。(近藤)



開幕を祝う花火



巨大な氷の建物



制作中の雪像も見れます

新潟産米試食宣伝会を開催

新潟産米の需要拡大を図り、新潟米のターゲットとなる消費者層（富裕層）に対してPRを行い、新潟産米の美味しさを知ってもらうため、1月7日から9日までの三日間、中国向け新潟米輸出促進協議会主催による新潟産米試食宣伝会を北京の高級百貨店、新光天地で開催しました。

春節の前に試食宣伝活動を開催することは2007年から始まり、今年度は四回目になります。新光天地百貨店地下一階にあるBHG マーケットプレイス食品売り場入れ口の付近で、春節ギフト用、新潟米と他商品とをセットにした限定の贈答用

及び普通用商品が展示、美味しい炊き方チラシを配布、DVD で調理方法の説明を放映するほか、日本料理店「松伸」新光天地店寿司店長らによる新潟米を使用したミニおにぎりや太巻きのデモンストレーションの実施などで往来するお客さんへ試食を提供しました。

試食活動に伴う広報活動としては、開催前に北京で発行している日本語フリーペーパーの6誌及び「新京報」という新聞で北京事務所によるPR広告を掲載しました。また、中国のWEB 会社人民網が加茂田新潟県農林水産部長へインタビューを実施しました。在中国日本大使館も同館が発行するメルマガにイベントのニュースを載せ、日本文化に関心を持つ会員に宣伝することで試食活動の後援をいただきました。

包装が類似した日本他県産米も同会場で販売されており、しかも価格は新潟産米より安く、「同じ日本産米なのに、なぜこちらのほうが高いのか？」という疑問をもつ消費者がいました。今年度、新潟産米の中国での輸入量は77トンでした。協議会としては、次年度、更に輸出量を増やし、安全、安心で美味しい新潟米を中国の方にPRしたい意向もあることから、これから販路はますます拡大していくと思われれます。将来、中国市場での日本産米の販売に対し、このケースの様に消費者に混乱を与えないように、産地を県名まで明記し、包装も類似しない等、工夫が必要あると思います。

北京での試食活動と同様に、同月、上海、蘇州でも新潟産米試食宣伝会を行いました。（斬）



会場で太巻きを試食しているお客様

JETO 広州日本食品商談会写真



にぎわう会場



大勢が見守る中でちらし寿司づくり



西園寺 一晃先生の

中国問題レポート

転換期、正念場を迎える中国

第11次5カ年計画は2006年に始まり、2010年で終了する。次の第12次5カ年計画は2011年から2015年までである。この第12次5カ年計画は、来年3月に開かれる予定の全国人民代表大会（全人代）で決定されるが、その骨組みは先般開催された中国共産党第17期中央委員会第5回総会（17期5中全会）で、「第12次国民経済社会発展5カ年計画策定に関する党中央の提案」という形で事実上決定された。来年3月の全人代の任務は、この「党の提案」を具体化することである。

この「党の提案」は歴大なもので、詳しく紹介できないが、経済面で特に強調されているのは、①経済発展パターンの転換。②「三農」（農村、農業、農民）の抜本的改革である。

さて、今年は中国のGDPが日本のGDPを抜くことは確実だ。第2四半期に次いで、第3四半期（7月—9月）のGDPも、中国は日本を上回った。ただ1月—9月のGDPを見ると、日本が3兆9674億ドル、中国が3兆9468億ドルで、わずかに日本を上回った。通年では確実に中国が日本を逆転し、成長率は10%に達する見込みだ。

中国経済は依然好調だが、政府はそれほど楽観視していない。当面の問題では、1つには消費者物価が上昇、目標の3%以内をはるかに超え、4%台に突入したこと。インフレ懸念が増大した。2つ目は、こここのところ必死で不動産バブルを押さえようとさまざまな手を打ってきたが、不動産はなお上昇を続けていること。3つ目は、経済の成長に比べ、所得が大きく伸びないと国民の中に不満があることだ。

不動産バブルに関して、政府は外国からの流入投機マネーに神経を尖らせている。中国商務部の発表によると、1月—10月の海外からの不動産に対する投資額は、前年同期に比べ48%増加した。米国などの金融緩和の影響があるようだ。中国がインフレ対策で金融引き締め（利上げ）をすれば、日米欧との金利差をさらに広げ、投機資金の流入を一段と加速させるというジレンマがある。外貨管理は厳しくなり、不動産や株投機も厳しく制限される可能性がある。

国民所得の向上に関して、中国は来年思い切った手を打つという情報がある。「所得倍増計画」のようだが、人件費が大幅に上がれば、企業経営を圧迫することになる。外資系企業にはどのような影響が出るのかなど、中国に進出し

ている企業は来年3月の全国人民代表大会（全人代）を注目する必要がある。

以上は当面の問題だが、そのほかに政府が頭を悩ませているのは中長期的問題である。それはこれまでの「外需型成長」から「内需型成長」への転換だ。そのためには産業構造の大改革だけでなく、「三農」問題（農業、農村、農民）の抜本的改革が必要だ。農業の大規模化、農村の都市化、農民所得の大幅向上を図るという事は、中国全体の改造に通じる革命的出来事となる。工業面では、これまでの労働集約型産業から、高付加価値産業への転換を図る、輸出産業重視から国内市場を意識した産業創出などだが、ここにもジレンマが存在する。中国が外資導入と輸出振興に成功した結果、高度成長が実現し外貨保有高世界1となった。この構造を転換するということは、失敗すれば経済の失速を招きかねない。少なくとも、所得倍増は内需拡大に通じるが、それは安価な労働力がなくなることを意味し、外資が中国に入るメリットが無くなることを意味する。中国は外資の構造をも転換しようとしている。つまり、これまでのような外資は全てウエルカムではなく、高度技術の移転を伴う、中国で高付加価値製品を生産する外資を選別して導入ことだ。ただ短期的に全国で実現するのは無理だろう。内陸部の低成長地帯では、まだ労働集約型の産業が必要だ。要するに、すでに大きく発展した沿海ベルト地帯の都市とその周辺では、もう労働集約型産業は必要ないという決断をしたわけだ。このような状況の中、前述の「党の提案」で、これからの方向として「工業化、情報化、都市化、市場化、国際化」を挙げているのは意味深長である。

第12次5カ年計画の5年間は、中国の発展にとって「カギとなる時期」（「党の提案」文）となるだろう。そのためには安定した国際情勢を望んでいるのは確実だ。日中関係については結局「対抗より協調」を選んだ。朝鮮半島の緊張はなんとしても緩和させたいのが本心だ。中国は転換期、正念場を迎えようとしている。

*原稿は2010年11月末にいただいたものです。

【筆者プロフィール】

西園寺 一晃（さいおんじ かずてる）氏

1944年生まれ

- 明治の元勳・公爵・首相・枢密院議長である西園寺公望氏を曾祖父に持つ。
- 西園寺公一（きんかず）氏（第一回参議院議員・日中文化交流協会常任理事）の長男。
- 北京大学経済学部卒業
- 朝日新聞社に在籍中は、日中関係の調査研究室長などを歴任。退職後も中国問題の調査、研究にあたる。
- 現在工学院大学客員教授、北京大学客員教授、伝媒大学客員教授、北京城市大学客員教授



2011年1月20日8:30北京駅広場の様子

中国人が一番重んじる伝統の祝日—春節。今年の春節(旧正月)は2月3日
で、2010年の2月24日より11日間早まりました。中国政府が発表した
公休期間は2月2日～8日。この連休を利用し帰省して一家団欒することは
日本の正月同様、中国人にとっても最も重要な行事です。よって、年に一
度の「春運」(春節前後、中国大陸で現れる大規模な帰省ラッシュに向け、
交通運輸機関が特別ダイヤを組むこと。)が例年より早まり、1月19日～2
月27日の40日間になっています。

この春運は「世界最大規模の短期人口移動」と言われています。政府交
通運輸部の1月11日の発表によると、今年の春運期間中、前年比
11.6%増の延べ28.53億人(平均4回/人)が鉄道、道路、水路、空路等の
各交通手段で各都市の間を移動します。内、鉄道・道路の利用者数は9割
弱の延べ25.56億人、水路は延べ3500万人、空路は延べ3220万人。北京出入り者数は約3679万人、前年比8.5%
増と予測されています。

上記の数字を見ればお分かりになると思いますが、遠距離の移動手段は天候に左右されない鉄道がメインです。
しかし、「春運期間中、郷愁はあの小さな切符一枚であり、私はここに、故郷は向こうに」と言われているように、
帰省の際の切符の入手はとても困難です。

北京市内には、汽車の切符販売代理店が約700箇所あります。また、帰省
ラッシュに対応するために、北京駅、西駅は室内の切符販売窓口以外に屋外
でも約200箇所の臨時販売窓口を設置し、24時間体制で切符を販売してい
ます。にもかかわらず、どの窓口に行っても、長蛇の列ができています。窓
口に少しずつ近づいてきてやっと自分の番がきたと思ったら、「立ち席しか
ない!」、「希望の日の切符は売り切れ!」と言われると、多少失望しま
すが、普段どんなに忙しくても春節だけは家族と過ごしたいと思っている中国
人は、たとえ立ち席でも雨や雪が降っても迷わずに買い求め帰省します。厳
寒の中、ただ帰省の切符を一枚を買い求めるために、屋外での徹夜や長時間
待ちでも自分の番が来るまで根気強く待つシーンは中国以外の国では想像できないでしょう。



屋外臨時切符販売窓口

では、なぜ帰省の切符はこんなに買い求めにくいのでしょうか。①流動人口の構成からみると、まず、就職の
チャンス、大学等ほとんど都市に集中しています。田舎からの出稼ぎ労働者が中国流動人口の大多数を占めてい
ます。この階層は年明けに都市部へ出かけて年末に田舎へ帰省します。また、大学生の冬休みがちょうど春節の
前後一ヶ月です。さらに、勤務地と出身地が違うサラリーマンたちが帰省するほか、春節の7連休を利用して旅
行に行く人も多いからです。②交通運輸能力からみると、近年、政府は鉄道建設、特に高速鉄道の建設に大きな
力を入れて、2010年末までに鉄道運輸距離が9.1万kmとなりましたが、一人当たりわずか7センチです。また、
運賃の高い高速列車に対して、出稼ぎ労働者や学生たちに一番多く利用される普通列車の運輸距離がほとんど増
えていません。そして、年末年始、石炭・石油・食料等の需要が拡大され、貨物列車によるこれら重要物資の運
輸がこの乗客の移動とぶつかります。③そのほか、切符の実名購入制度や電話・ネット購入システムがまだ普及
されていないことも指摘されています。

政府鉄道部はこのほど、2015年までに、このような状況を根本的に改善すると宣言しました。2015年の春節
には、気楽に切符を買い求め、家族の待つ故郷に帰省できることを期待しています。(鞠)



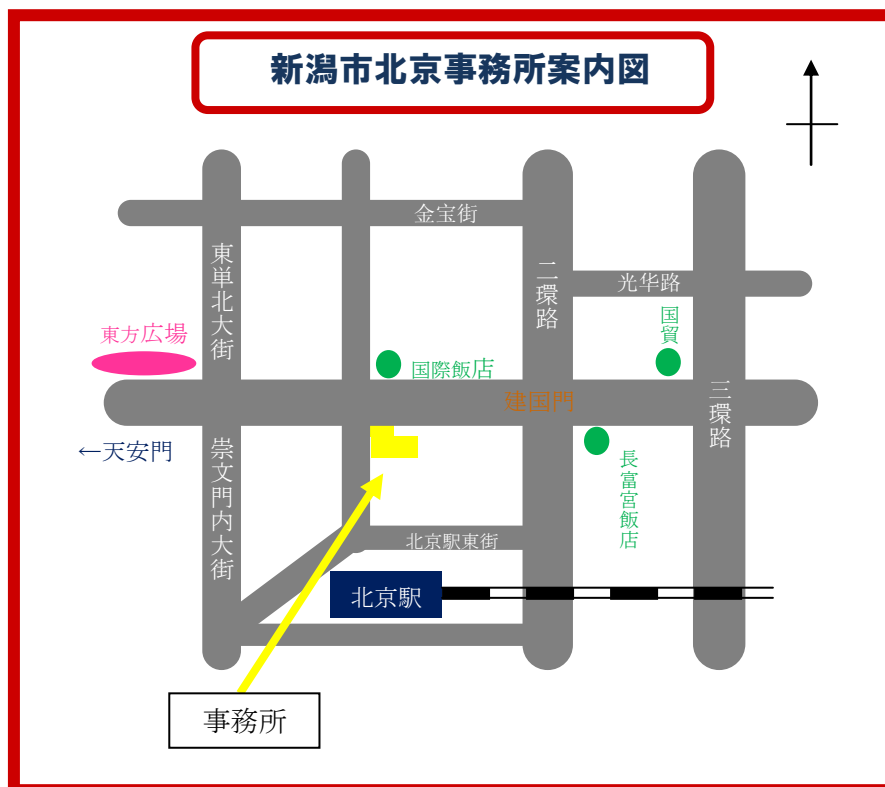
出口周辺も切符を買い求める長蛇の列



室内切符販売窓口から屋外までつながる列



切符販売状況を示す電子掲示板



北京市東城区建国門内大街18号

恒基中心1号楼 704室

TEL +86(10)6517-2460/3340

FAX +86(10)6517-8687

<http://city.niigata.org.cn>